



志清同友会
 福原 敏弘
 議員

少子化対策に伴う子育て環境について

問 市の産後ケア事業の状況は。

答 平成29年度から、出産後の体調の優れない方、家事や育児の支援を受けられない方、不安が大きく育児指導を受けたい方を対象に産後ケア事業を実施している。個別ケアとしては宿泊サービスと通所サービスがあり、3つの産科医療機関と2つの助産所に依頼している。本人の申出や電話相談、家庭訪問や医療機関受診の際に支援が必要と判断された産婦が利用している。また、令和4年度からは集団ケアとして「さんさんカフェ」を開催し、助産師や保育士による相談のほか、産婦同士の悩み等の話合いや仲間づくりなどの場にもなっている。

問 園児の心身に悪影響を及ぼす不適切な保育について、未然防止の対策は。

答 保育・幼児教育課が不適切な保育に関する相談窓口として、保護者等からの相談を受けている。また、県では専用相談窓口が設置され、各市町と個別事案に関する情報共有や事実確認、今後の対応の報告を必要に応じて求めることにより未然防止に努めている。また、市内全園においては、セルフチェックリストにより自己チェックを行い、保育士自身の振り返りを行っている。今年中には県や市主催の研修を行い、子どもの人権や不適切保育に対する職員間の認識共有、日々の保育で見直すべきことへの気づき等につなげ、未然防止に取り組んでいく。



市民創世会
 大門 嘉和
 議員

鯖江つつじマラソンについて

問 幅広い世代が親しめる大会と位置づけられているが、5キロメートルの部は男子が4階級、10キロメートルの部は男子が3階級だが、女子はどちらの部も1階級のみである。新聞には各種目の上位者の名前が公表されるため、クラスを分けることにより、高齢者にも名前が掲載されるチャンスが生まれ、次回以降の励みにつながる。女子のクラス分けや男子の部に70歳以上のクラスを設けるなど、独自色を出してはどうか。

答 一般女子部門での年齢によるクラス分けや、70歳以上部門を新設することにより、参加意欲を向上させる効果もあると思われる。各部門の参加状況を踏まえ、他の大会

などの調査を行いながら、実行委員会に諮っていききたい。

問 つつじマラソンと銘打ちながら、沿道にツツジの花がないとの指摘を受け、コースの歩道にツツジの植樹ますを設け、穴田川堤防に植栽をしてきたが、花が終わった時期に開催しても、これらの努力が生きてこない。開催時期を見直してはどうか。

答 つつじまつり等との重複を避け、市内の混雑や運営協力の集中を回避するため、実行委員会の総意として、開催時期を現在のとおりに変更した経緯があるため、理解をお願いしたい。



ハーフの部のスタート



公明党
 遠藤 隆
 議員

今年の熱中症対策について

問 国は、今年4月に熱中症対策行動計画の改定を行い、顕著な高温が発生した際に死亡者数を減らすことを目指すことを新たに掲げている。また、顕著な高温の発生に備えた対応と、地方公共団体による熱中症対策取組強化が示されたが、市として今後の熱中症対策をどのように行っていくのか。

答 来年施行予定の改正気候変動適応法では、国が策定する熱中症対策実行計画がより強化され、総合的かつ計画的に熱中症対策を推進していかなければならないとされている。市としては、冷房設備を有する等の要件を満たした指定暑熱避難施設(クーリングシェルター)を指定し、熱中症特別警戒

情報の発表期間中は一般に開放すること、また、熱中症対策の普及啓発に取り組む民間団体等を熱中症対策普及団体として新規に指定することについて、関係機関等と連携・協議しながら、熱中症対策を着実に進める体制づくりに取り組んでいく。

また、熱中症警戒アラート発令時の対応として、職員の役割分担や緊急連絡先の掲示、救命処置の講習の実施などの体制づくりを確立し、各施設等でのポスターなどに熱中症予防対策を記載するなど注意喚起を強化する。来年の施行に向けて準備を進めていく。



熱中症の予防と対策を